
夫婦間生体腎移植後ドナーの夫婦関係満足度調査 における男女差

佐藤恭平、田中佳奈子、吉田清人、井上高光^{*}、成田伸太郎^{*}、佐藤 滋^{**}、羽瀨友則^{*}
秋田大学医学部附属病院第二病棟 2 階、秋田大学大学院医学研究科腎泌尿器科学講座^{*}
秋田大学医学部腎置換医療学講座^{**}

Gender Differences of Marital Satisfaction after Kidney Donation in Spousal Unrelated Living Renal Transplantation

Kyohei Sato, Kanako Tanaka, Kiyoto Yoshida,
Takamitsu Inoue^{*}, Shintaro Narita^{*}, Shigeru Sato^{**}, Tomonori Habuchi^{*}
Department of Urology, Akita University Hospital
Department of Urology, Akita University Graduate School of Medicine^{*}
Department of Renal Replacement Therapy, Akita University School of Medicine^{**}

<緒言>

当院では年間約20例の生体腎移植が行われており、その4割は夫婦間生体腎移植である。「近年、ABO不適合腎移植の治療成績改善及び、ドナー不足により夫婦間生体腎移植は増加している¹⁾」。夫婦間生体腎移植の精神医学的特徴として、「①拡大家族との間の心理的葛藤が少ない。②夫婦にとって相補的行為である。③透析に伴う葛藤を自らの力で解決できる。④術後の管理がしやすいというメリットがある²⁾」と言われている。しかし、我々は夫婦間生体腎移植直後に離婚した症例を経験し、生体腎移植後の夫婦関係満足度に注目した。前年度の当院における研究で生体腎移植後の夫婦関係満足度調査³⁾はすでに行われ、諸井の尺度でドナー女性の満足度がドナー男性に比べて有意に低いという結果を得た。しかし、夫婦間生体腎移植を受けたドナーにおける夫婦関係満足度の男女差の要因については明らかにされていない。そこで、夫婦関係満足度におけるドナーの男女差に影響を与える因子を明らかにするため調査をすることにした。これらを明らかにすることで、これから夫婦間生体腎移植を受けるドナーに対して情報提供を充実させることができ、不安の軽減につながると思う。以上をもってドナーの精神的フォローを充実させることができると考える。

本研究では、夫婦間生体腎移植を受けたドナーの夫婦関係満足度調査における男女差に影響を与える因子について明らかにすることを目的とした。

<対象と研究方法>

1. 対象：平成10年2月から平成24年5月までにA病院で夫婦間生体腎移植を受けたドナー73名。一般夫婦33組(66名)で前年度の研究に9例を追加し検討した。

2. 研究調査方法：これまでに有用性が報告されている諸井の夫婦関係満足度尺度⁴⁾と、海外で広く使用されているShort Marital-Adjustment Test⁵⁾の2種類の自己記入式調査票を郵送し回収した。

1) 諸井の夫婦関係満足度尺度（以下諸井の尺度と称す）：諸井(1996)によって報告され、その信頼性が検証されている。6項目から構成され、評点は1点から4点までの4段階である。合計得点は6点から24点の範囲で、得点が高いほど夫婦関係満足度が高いことを示している。

2) Short Marital-Adjustment Test（以下MATと称す）：Lockら(1959)によって作成された夫婦関係満足度尺度⁵⁾であり、海外で最も頻繁に使用されている。結婚生活に対する総合評価である項目（10から35点）と、夫婦間の意見の一致、共同活動の程度、配偶者に対する満足感、信頼度等を評価する2～15項目から構成され、夫婦関係の多側面を測定する尺度である。合計得点は2点から158点で、得点が高いほど夫婦関係満足度が高いことを示している。

3. 分析方法：回収したデータを集計し、点数化した。統計処理は基本統計量の算出、t検定、 $p < 0.05$ を有意とした。合計点を比較する際は欠損項目がある回答は無効とした。

4. 倫理的配慮

対象者に研究目的、方法、調査の協力は自由意志に基づくものであり、いつ中止・撤回しても構わないこと、研究協力を断っても不利益が生じないことを文書で保障した。また、データは統計処理するため個人が特定される事がないこと、データの管理、破棄について説明し返答をもって同意とした。

<結果>

1. 対象者の属性

アンケート送付患者73名中56名（回収率76.7%）、一般66名中62名（回収率93.9%）より回答が得られた。ドナー56名（男性21名、女性35名）、平均年齢は59.7歳（男性59.8歳、女性59.7歳）であった。一般夫婦62名（男性31名、女性31名）、平均年齢は44.1歳（男性44.1歳、女性44.0歳）であった。（図1）

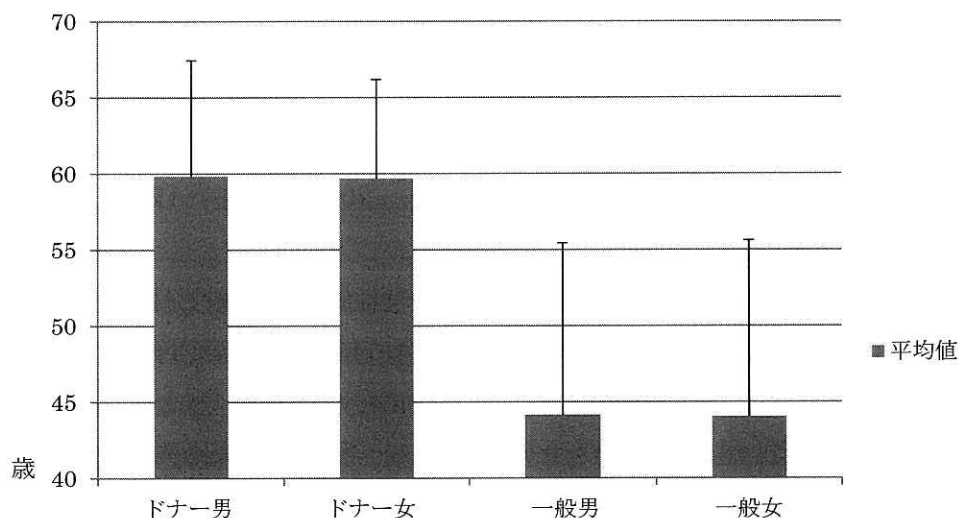


図1 対象者平均年齢

2. 全症例における夫婦関係満足度

諸井の夫婦関係満足度尺度の合計点数は平均がドナー男性20.16、ドナー女性19.71、一般男性20.3、一般女性20.7であった（図2）。諸井の夫婦関係満足度尺度において、合計得点でドナー男性とドナー女性に有意差を認めた（表1）。ドナーと一般には有意差は認めなかった。

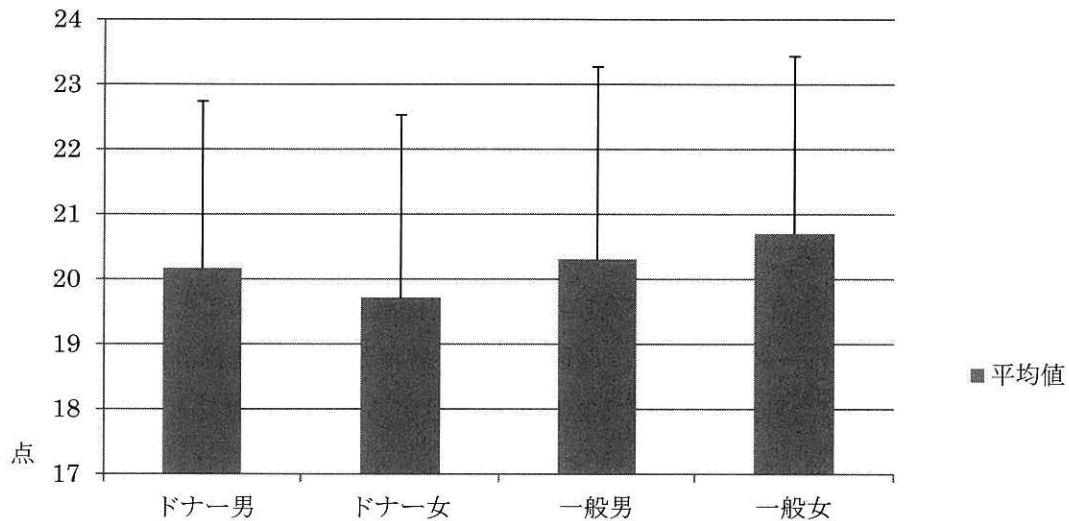


図2 諸井の尺度合計点数

表1 諸井の夫婦関係満足度尺度の結果

項目	ドナー男性 平均値	ドナー女性 平均値	<i>p</i>
私たちは、申し分のない結婚生活を送っている	3.33±0.5	3.38±0.49	<i>p</i> =0.186
私と夫(妻)の関係は非常に安定している	3.41±0.46	3.33±0.48	<i>p</i> =0.036
私たちの夫婦関係は、強固である	3.5±0.4	3.19±0.6	<i>p</i> <0.001
夫(妻)との関係によって私は幸福である	3.41±0.46	3.33±0.48	<i>p</i> =0.036
私は、まるで自分と夫(妻)が同じチームの一員のように であると本当に感じている	3.25±0.52	3.14±0.79	<i>p</i> =0.096
私は、夫婦関係のあらゆるものを思い浮かべると、幸 福だと思う	3.25±0.52	3.33±0.48	<i>p</i> =0.276
合計点数	20.1±2.56	19.7±2.81	<i>p</i> =0.031

MATの合計点数の平均はドナー男性100.75、ドナー女性96.09、一般男性104.23、一般女性105.7であった。MATにおいては、ドナー、一般で合計点数に有意差を認めなかった（図3）（表2）。

諸井の細項目においては、ドナー男性とドナー女性において問2「私と夫(妻)の関係は非常に安定している」（平均値3.41 vs 3.33、*p*=0.036）。問3「私たちの夫婦関係は、強固である」（平均値3.50 vs 3.19、*p*<0.001）。問4「夫(妻)との関係によって私は幸福である」（平均値3.41 vs 3.33、*p*=0.036）で、ドナー男性とドナー女性に有意差を認めた（表1）。

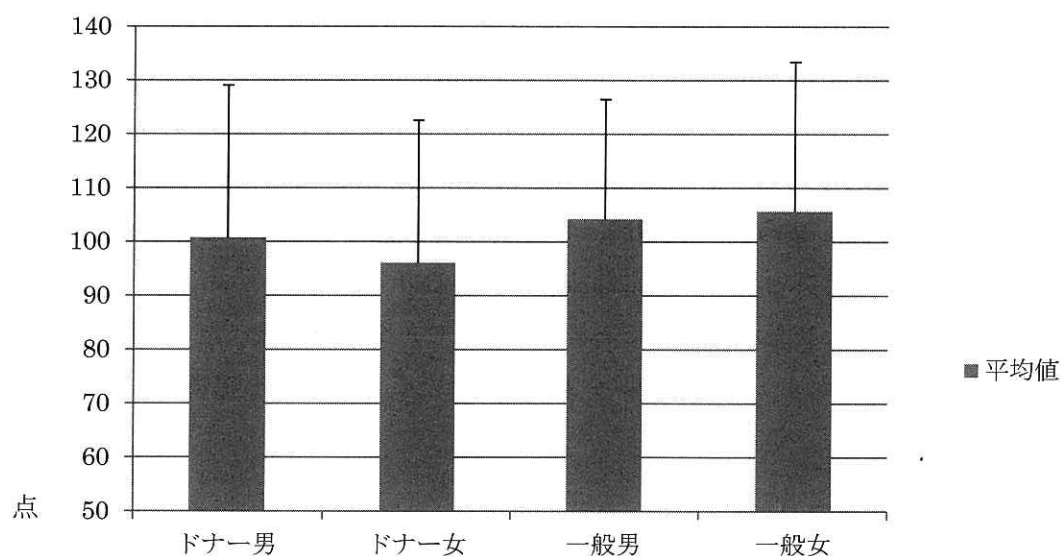


図3 MAT合計点数

表2 Short Marital-Adjustment Testの結果

項目	ドナー男性 平均値	ドナー女性 平均値	<i>p</i>
総合評価	24.16±8.68	21.28±6.83	<i>p</i> =0.11
家計の取り扱い	3.5±0.98	3.47±0.92	<i>p</i> =0.352
レクリエーションのこと	3.5±1.07	3.04±1.28	<i>p</i> =0.085
愛情の表現	4.91±2.37	4.19±2.33	<i>p</i> =0.197
友人	3±1.27	3.19±1.12	<i>p</i> =0.858
性的関係	7±6.48	6.23±4.43	<i>p</i> =0.531
しきたり(正しい, 良い, あるいは適切な行為)	3.16±1.43	3.14±1.27	<i>p</i> =0.552
生き方に対する考え方	3.41±0.9	3.04±1.32	<i>p</i> =0.098
親戚とのつきあい方	3.5±1.07	3.61±0.86	<i>p</i> =0.603
不一致が起こったときにはたいていどうなるか	6.33±4.32	7.04±4.31	<i>p</i> =0.932
あなたと配偶者は家庭外での趣味を一緒にするか	6.75±3.1	6.19±3.42	<i>p</i> =0.338
自由な時間があるとき, あなたはと配偶者は揃って外出をするか	3.83±2.89	4.38±3.24	<i>p</i> =0.86
結婚しなければよかったと思うことがあるか	10.58±5.04	7.85±5.09	<i>p</i> =0.063
もし, もう一度生まれてきたら同じ人と結婚するか	8.75±7.56	9.28±7.46	<i>p</i> =0.927
あなたの配偶者を信頼しているか	8.33 ± 3.01	9.61±1.74	<i>p</i> =0.6
合計点数	100.75 ± 28.27	96.09±26.44	<i>p</i> =0.195

自己記入式アンケートの他にフリーコメント欄を設けたところ、ドナー男性は移植して悪かったことについて、「体調が良くなかった。」とのコメントが1件のみであった。ドナー女性は「お互いに体調管理がおろそかになってしまった。」「自分の体調が不良。」「移植した本人は元気になっていくのが目に見えて分かるがドナーである自分はなかなか元に戻らなくて辛い。」「お互いのことを心配して気疲れしてしまう。」「長期間、不健康な夫を抱えて外出や楽しみを共有できなかった分だけ、今は期待しすぎてときに喧嘩になることがある。」

「以前の苦しかったことを忘れ、多量にお酒を飲んだり、タバコを吸ったり、嫌味なことを言うので耐えられない時がある。」「毎日飲み歩くようになったことでいつも喧嘩をしている。」とのコメントがあった。

<考察>

我々は二種類の自己記入式夫婦関係満足度調査票を用いて夫婦間生体腎移植を受けた夫婦のドナーとそのコントロール群として一般夫婦に夫婦関係満足度調査を行った。本研究では諸井の尺度の合計点数に男女の差を認められたが、MATの合計点数では男女の差は認められなかった。菅原らは、「MATは夫婦関係の多側面を測定している尺度であり、愛情表現の一致を訊ねる項目があっても、互いの相手に対する恋愛感情に類する項目はほとんど見当たらない。恋愛感情の存在が夫婦間の親密性を形成する重要な一側面であり、夫婦関係満足度に対する総合評価にも大きく影響されることが予想される⁵⁾」と報告している。我々の結果において、諸井の尺度は、質問内容が互いの相手に対する感情を問う項目が殆どであるため、ドナー女性の移植後の生活や夫婦関係に対する過剰な期待や体調不良が影響し、合計点数においてドナー女性で低い結果が出たと考えられる。

細項目では「私と夫(妻)の関係は非常に安定している」「私たちの夫婦関係は、強固である」「夫(妻)との関係によって私は幸福である」の項目で男性よりも女性の方が有意に低かった。中間らは「夫婦間の役割関係には、伝統的な性別役割価値観という社会規範の影響が大きく、これは、普遍的かつ一般的のものとされ、現在でも無視できない考えだ⁶⁾」と報告している。また、柏木らは「国際比較によると、日本は伝統的な性別役割価値観の度合いが高く、夫と妻を比較すると、夫の方が伝統的な性別役割価値観を持っている⁷⁾」と報告している。さらに、「性別役割学習や文化社会的な視点から見ると男性が女性に比べ、感情に重きを置かない、敏感ではないという推察ができる⁸⁾」と述べている。したがって、妻がレシピエントの場合、ドナーである夫は移植後の健康になった妻の働きに満足するが、夫がレシピエントの場合、妻に感謝の意を示すことが苦手とする夫に対してドナーである妻が不満を感じていると考えられる。

また、「夫婦間不和が妻の心身の影響に及ぼす影響は夫に比べて強い⁹⁾」といわれている。フリーコメントにあるようにドナー男性のコメントでは身体的なことについてのみ述べているのに対して、ドナー女性は体調や夫婦の関係などの心身の事について述べている。ドナー女性は生体腎移植後の夫婦生活に過剰な期待をしてしまったり、夫婦喧嘩や夫に嫌味な事を言われたりすることに不満を感じているため、ドナー女性が受ける心身の影響が満足度を低下させた要因であると考えられる。

<結論>

1. 諸井では女性ドナーで有意に夫婦関係満足度が低かったが、MATでは有意差は認められなかった。
2. 男性レシピエントに対する感情を問う項目が女性ドナーの低い夫婦関係満足度に影響を与えた。
3. 諸井では上記因子を評価できたが、MATでは評価できなかった。これは日本と海外の夫婦関係の文化的背景の違いを反映している可能性がある。

引用文献・参考文献

- 1) 森 義明、他：夫婦間腎移植の臨床的検討、日本移植学会誌「移植」39：499-555、2004
- 2) 渡辺俊之、他：夫婦間腎移植における精神医学的問題、臨床透析11：153-157、1995
- 3) 齋藤眞樹、佐々木友和、他：夫婦間生体腎移植後の夫婦関係満足度調査、日本臨床腎移植学会集録集No92：302-304、2012
- 4) 諸井克英：夫婦関係満足尺度 吉田富二雄（編）2001 心理測定尺度集Ⅱ—人間と社会のつながりをとらえる（対人関係・価値観）、149-152、1996
- 5) 菅原ますみ、他：夫婦間の親密性の評価—自記入式夫婦関係尺度について—、精神科診断学8：155-166、1997
- 6) 中間美砂子、谷田沢典子：家族の安定と緊張—中年期の家族、日本家政学会編、家族関係学、朝倉書店、1996
- 7) 柏木恵子、数井みゆき、大野祥子：結婚・家族観の変動に関する研究(1)~(3)、日本発達心理学会第7回大会発表論文集：240-242、1996
- 8) 野澤真由美：中年期夫婦における関係の満足度、問題対処、感情との関連、人間文化創成科学論議、第11巻：207-216、2008
- 9) Gotlib.I.H.and V.E.whiffen: Depression and Marital Functioning, An Examination of Specificity and Gender Differences. Journal of Abnormal Psychology 98: 23-30, 1989.